

時間外勤務の縮減に向けた取組(都市経営戦略部)

■ 背景・現状

各定例会における答弁書の取りまとめ業務について、時間外勤務時間が他の業務に比べて短期間で著しく膨大となる状況が続いていた。

各定例会における時間外勤務を減少させることを検討

■ 時間外縮減のために取り組んだこと

作業手順、作成書類、人員配置体制の見直しを図り業務の効率化は図られたが、時間外勤務を縮減するためには更なる対策が必要であった。

「フレキシブルな勤務時間の割振り」を活用することを検討



時間外勤務の縮減に向けた取組

■ 効果・課題



【効果】

例:6月定例会時(対象期間:2日間 対象人数:延べ8人)

⇒ 36h時間外勤務縮減

9月定例会時(対象期間:5日間 対象人数:延べ19人)

⇒ 58.5h時間外勤務縮減

【課題】

・今回の対応は、一時的に発生する業務には効果があるが、恒常的な時間外勤務の削減には対応が難しい。